

ぬまた未来創造学 実践記録リーフレット

沼田市立池田小学校第3学年 総合的な学習の時間「目指せ!池田のフルーツ博士」

池田地区の特産品である「りんご」「ぶどう」作りの簡単な作業や観察から、児童が自ら課題を設定し追究しました。地域のよさに気づき、学びや自分の考えを発信していった探究活動の記録です。

1. つかむ過程（課題の設定）

登下校の途中にあたり、家族が働いたりしているりんご園やぶどう園など。身近な特産物に目を向けて、「池田のフルーツをたくさんの人に知ってもらうには、博士になる必要がある!」という共通の願いをもち、単元課題を設定しました。

2. 追究する過程①（情報収集・整理分析）

「真田りんご園」や「ぶどうやあべ」を見学・訪問。4月の花摘み、5月の摘果や袋掛け、花の観察、7月の実すぐり見学など、年間を通した栽培プロセスを五感を使って調べました。また、本やネットでも情報を補いました。



3. 追究する過程②（整理分析・情報収集）

集めた情報を、児童の関心に合わせて「育て方」「農家の方の思い」「品種」などの視点でシンキングツールを使い整理。さらに10月の収穫体験等を通して、新たに浮かんだ疑問をさらに深く追究しました。

4. まとめる過程（まとめ・表現）

魅力を伝えるポスターを池田地区コミュニティセンターや郵便局、駅へ掲示する活動を展開。新聞・パンフレットづくり、額部小学校や下田小学校へのオンライン発表会などを通して、学校内外や地域の方々へ堂々と発信を行いました。



「フルーツはかせ」になった子どもたちの言葉と成果

- ・「りんご園で働く人の大変さが分かった。これからはみんなで感謝して食べようと思います。」
 - ・「ぶどうのおいしさをたくさんの人に知ってほしくてポスターを作りました! 見てもらうのが楽しみです。」
 - ・「たくさん調べて体験して『池田のフルーツはかせ』になれた! 次は『池田の豊かな自然はかせ』になりたいな。」
- 📍 単元の成果: 果樹園での体験や農家の方々との積極的な交流を通し、児童は地域のよさに気づき、池田のフルーツへの理解を深めるとともに、誇りをもって主体的に発信する姿へと成長しました。